

平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>校是の「進取」「敬愛」「雄健」の具現化を図り、地域から信頼される質の高い教育を実践し、未来の創り手を育成する。そのために、</p> <p>① 自ら学ぶ姿勢を有し、自ら高みに挑戦する生徒を育て、学力の伸長を図る。</p> <p>② 特別活動等により、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図る。</p> <p>③ 生徒、教職員、保護者が一体となって、教育内容の質の向上を図る。</p> <p>④ 学研都市の資源を活用しながら、社会の一員としての自覚を持った生徒を育成し、文化学術研究を実践する学校づくりを進める。</p>	<p>◇ 生徒一人ひとりが目的意識を持って進路実現を果たした。今後は主体的・自立的に学習し挑戦する生徒の育成に向け、さらに教育力の向上を図る必要がある。</p> <p>◇ 文化祭の内容充実をはじめ、中・短期の海外留学や国際交流、ボランティア活動等、生徒の主体的な活動が広がった。</p> <p>◇ 生徒・保護者アンケートに基づき、生徒個人ロッカーの設置やトイレのメンテナンス等の学校改善に取り組むことができた。</p> <p>◇ 日常的な校務の増加や複雑化・困難化が進み、生徒と向き合う時間の確保が課題となっている。学習指導や進学指導等に集中できるための業務の適正化や生産性の向上が必要である。</p>	<p>① 個に応じた学習内容の提供及び思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善等、学習指導の充実のための研究・実践を行う。</p> <p>② 難関大学進学に向けた組織体制を確立し、効果的な学習・進路指導を展開する。</p> <p>③ 4つの奨励（部活動、国際交流、ボランティア、コンテスト）を継続し、生徒の主体的・協働的な活動の機会を増やす。</p> <p>④ 中高一貫教育校の開校に向けた具体的な検討を行い、関係機関と連携しつつ計画的に準備を進める。</p> <p>⑤ 情報発信を積極的に行うとともに、生徒・保護者アンケートや学校関係者評価を活用し、学習者起点による学校の魅力化を図る。</p> <p>⑥ ダイバーシティとワークライフバランスに係る具体的な取組を進める。</p>

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
教務部	学習指導の充実を図る。	個に応じた指導につなげる課題の内容及び提供方法について、教科会議及び教科主任会議で研究する。 高大接続改革の動向を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業について、その指導方法の工夫改善のための研究や実践を行う。 中高一貫教育校開校及び学習指導要領改訂を踏まえた教育課程の検討・改善を行う。
生徒指導部	薬物乱用の根絶	2、3年生を対象に薬物乱用防止講演会を実施する。 教職員対象の研修会を実施する。 木津警察署と月1回以上の情報交換(薬物乱用を含む)を行う。
	主体的な活動の充実	部局勧誘立て看板を効率的に設置するとともに、ダブルアップセミナーにおいても各部を紹介する。また、中庭パフォーマンスを盛り上げるよう放送局との連携強化を図る。 様々な取り組みや研修会(講習会)においては、実施の背景を明確にし、肯定的かつ積極的に取り組めるよう工夫する。 生徒会を通じた行事において生徒が主体的に取り組めるよう、生徒の熱意に寄り添いながら丁寧な手順を踏まえ、計画的な指導を行う。
	人権教育の充実	各種奨学金等の案内・手続きを行う。 人権学習前に人権ニュースを発行し、導入に役立てる。 1、3学年で共通アンケートを実施する。
進路指導部	個に応じた学習指導の充実を図る。	土曜学習会や長期休業中の進学講習の内容を教科・学年と調整し、学習内容別の講座選択を実施する等個々の生徒のニーズに対応した、より効果的な学習指導を実践する。 進路情報通信の発行を定期的に行い、生徒の学習意欲の向上と維持に努め、タイムリーな情報を生徒・保護者に発信することで個々の生徒が抱える課題の発見とその解決の契機とする。
	難関大学進学に向けた学習指導・進路指導の研究・実践を行う。	難関大学進学に向けた学習集団(チーム・ガリレオ)を育成し、ICTを利用した学習について研究を深め、生徒の実態に応じた学習指導についての手法を柔軟に実践する。 進路検討会をとおして3年学年団と連携をさらに深め、学習指導・進路指導の協働体制を強化する。
	各種模擬試験データの共有と分析を行う。	進学情報会議で情報を共有化するとともに、各教科・学年での進路指導方針を立案し、日常の学習指導や生徒面談に反映させる。 FINEシステムやデジタルサービスの活用により、学級担任・教科担当者レベルでの分析を充実させ教員集団としての情報分析力を高める。

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
保健部	多様化する健康課題への対応	学年に応じた健康教育を実施するとともに、救命救急意識の高揚を図るため保健委員・部局員代表者に対して救急処置研修会を実施する。 教職員のスキルアップのため教職員研修会を実施するとともに、救命救急処置のレベルアップ及び意識の高揚を図るため普通救命講習を実施する。 最新の健康に関する情報を提供し、生徒自身の行動変容を促すため保健室だよりを10回発行する。
	他分掌や関係機関等との連携	健康課題の早期発見・早期対応を図るため、健康観察・情報交換を毎日実施する。 学校適応指導会議を実施し、共通認識を持って支援を継続する。 事故災害の状況把握に努めるとともに、事故を未然に防ぐ取組を推し進める。
	生徒の主体的な活動の充実	自らの健康に対する意識の向上を図るため、保健委員会だよりを10回発行する。 生徒及び教職員の美化意識の向上を図るとともに学習環境を整えるため、美化委員会だよりを10回発行する。
図書部	図書委員会の活動内容を整理し、より主体的な活動につなげる。	「広報」班を新しく設け、図書館や委員会活動についての情報発信のための図書委員会だより「F・I・B」を学期に1回発行する。 国立国会図書館関西館や地域の保育所など外部との連携による企画実施を通じて、図書館や読書についての見方を広げる。
	授業等での図書館利用と関連図書の貸し出しを増加させる。	中学生向けの書籍と、新書など小論文に関する書籍を増やす。 おおむね学期に2回、教職員向けの図書館だよりを発行するとともに、各教科の需要を調査して、教科に関連する書籍とその展示を充実させる。
	生徒の知的好奇心に働きかける企画展示を工夫する。	「ワンボックス」を、教職員に協力依頼することも含めてより多様なテーマで作成し、また定期的に更新する。
企画研究部	生徒の主体的・協働的な活動の機会を増やす。	留学経験生徒を活用し、生徒が主体的に企画・運営する国際交流事業を実施する。 学研都市など地元の企業・団体等と連携して、生徒が自ら課題の発見・解決に取り組むプロジェクトを推進する。
	学校情報を積極的に発信する。	活力のある生徒の表情や活躍を全教職員体制でHPに情報発信する。 活躍している生徒自身が成果を発表できる場を企画する。
事務部	中高一貫教育校の開校に向けた円滑な校内運営を図る。	大規模工事が予定されている中、調整・協議を踏まえ、教育効果を落とさないように図る。 既存の工事だけでなく、付帯する箇所においても着手へと展開させるよう働きかける。また、校内運営費と掛け合わせ、誇りに思える教育環境作りを構築させる。
	就学の保障を充実させる。	奨学金等の説明会を開催し、丁寧な対応をもって奨学援助を助成する。 府子どもの貧困対策推進計画に則り、支援の充実に向け生徒把握・援助対応等を図る。生徒指導部人権係と連携を深め各種奨学金の活用を努める。
	校内の安全・安心・美化に努める。	技術職員を中心に点検日を設置し、教職員並びに生徒の安心・安全に努める。 危険箇所においては、早急に改修する。 年間修繕・改善一覧表を作成し、傾向を探り、次年度へ繋げる。

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
第1学年部	自立した人として、規律を重んじ、他者を思いやる心を養う。	集合指導等を通して集団生活の中で規律を守ることの大切さを意識させる。また、挨拶の励行、他者への思いやり等を担任が折に触れて説く。
	主体的に学習に取り組み、より高い目標に向かって学び続ける学習習慣を身につけさせる。	LHR等で模試の活用の仕方を説明し、生徒が模擬テストで学ぶ習慣を身につけられるよう指導する。 個々の生徒が抱える様々な問題を早期に発見するために、学期に1回以上の面談を行う。
	広い視野を持ち、進路について考えさせる	進路指導部と連携し、大学の授業を体験できる機会を設定する。
	第2学年部	進路目標の決定と主体的な行動
授業を大切にす姿勢		予習、授業、復習のサイクルを定着させるため学習記録を定期的に点検する。 学習のつまづきを早期に発見するために学期に1回以上面談を実施する。 家庭連絡を密にし、家庭での様子を把握し、生徒の置かれている状況を理解した上で指導を行う。
礼儀、人を思いやる心を大切にす集団作り		礼儀を身につけるため、また、思いやりの気持ちを表す手段としての挨拶を励行する。 多くの行事や様々な活動において企画から実行まで自ら考え行動する機会を設定する。
第3学年部		最高学年としての自覚を持ち、自立的に行動できる、人間性豊かな生徒を育てる。
	主体的に学習に取り組む力を高め、学力の向上を図る。	すべての教科を大事にし授業第一の姿勢を貫かせるため、学年部、進路指導部、教科担当で連携した指導を行う。 定期試験・模擬試験の結果を学年部と教科担当者で共有し、今何をすべきかが生徒にわかるようにし、一人一人が主体的に課題解決に向かうことをサポートする。
	一人一人の希望進路の実現を図る。	面談を各学期に1回行い、個に応じた指導により希望進路の実現に向けサポートする。 学年集会やHRで望ましい受験に向かう集団のあり方を説き、第一志望を目指して最後まで取り組む生徒集団を目指す。
	サイエンスリサーチ科	サイエンスⅡ・サイエンス研究の探究活動を、全校体制で取り組む。
「スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校」として、サイエンス英語に触れる機会を持つ。		国際的に発表されている学術論文に触れる機会を持ち、研究紀要の要旨を英語で書く。 海外の高校生・大学生と英語を利用して科学研究等の交流を行う。

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
国語科	個に応じた指導を進め、3年間を通して国語力の育成・伸長を図る。	初期指導においてダブルアップセミナーを行い、高校生としての予習や復習の方法を全体に具体的に指導することによって、自主的な家庭学習へ導く。 学年・学科・個の実態の把握に努め、それに応じた小テストや宿題、休業中の課題を工夫する。
	授業法や教材についての研修・交流を密にして、難関大学進学指導も視野に入れ教科全体の指導力の向上を図る。	3年間を見通した年間計画を練って課題意識を教員間で共有し、教材や指導法など連携を密にして一貫性のある指導を行う。 難関校を中心に入試問題研究会を開き、指導に生かす方法を研究する。
	読書習慣を定着させ、自ら考える力を育成すると同時に、自己の考えを表現する力を育成する。	授業を通じて、作者や内容に関連した書籍を紹介する。 感想文やスピーチなど自分の考えを表現させる機会を設け、考え、表現する態度を養うべく言語活動の充実を図る。 授業や休業中の課題を通じて読書及び図書館利用を啓発する。
	地歴・公民科	アクティブ・ラーニングの実施等、新入試を見据えた学習指導を充実させる。
	幅広いニーズに応じた、多様な受験に対応できる学習指導を展開する。	教科会議等を活用し、教材や定期試験問題の研究や共有を行うことで、本校の地理歴史科・公民科としての進学対策の方策を確立する。 教科会議等を活用し、年度前半に複数回小論文対策、2次試験対策の方法について検討する機会を設け、年度後半の実際の指導に繋げる。
	中高6年間を見通した教育内容について研究する。	中学校社会科の各分野の内容を整理・把握し、新学習指導要領の動向にも留意しつつ、地理歴史科・公民科の学習内容との整理・統合を図る。
数学科	個々の数学力を高める授業の充実	個に応じた適切な学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、知的好奇心をくすぐるなど、個々の数学力がより向上するような高度で格調高い授業を展開する。 計算力及び論理的思考力、記述力を培う授業を行う。
	数学を楽しみ探究する精神の育成	個々の生徒の数学力が向上するような自作問題及び主体的に授業に参加できる教材の開発を行う。 生徒が京都・大阪数学コンテストを始めとするコンテスト及び数学検定などへ積極的に参加し、入賞者及び検定合格者が増加するような学習指導や仕掛けを行う。 数学の魅力や面白さが伝わるような数学通信「GALOIS(ガロア)」を学期に2回以上発行し、HP等で地域にも発信する。
	個々及び組織的な教科指導力の向上	3年間を見通した授業の進度及び指導方法について、同じコースを担当する教員が交流する場を週1回以上設定し、情報を共有する。 個々の教員が難関大学を中心とした大学別及び分野別の入試問題研究を行い、その成果を教科で共有する場を年3回程度設定し、日々の授業や難関大対策(ガリレオ)等に活用する。 中高一貫教育を見据え、数学における6年間を見通した教育課程及び組織的な指導体制について検討する。

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
理科	主体的な学習を促し、学力の向上を図る。	基礎学力から難関大学入試に対応できる学力までそれぞれの個に応じた学習指導を行い、進路実現に必要な学力を習得させる。 実験・実習や協働学習を通じて、主体的に学ぼうとする姿勢を身につけさせる。
	組織的な教科指導の体制を確立する。	科目主担当を中心に、学年間や同学年での教員間の連携を密にとる。また、模擬試験等の結果を分析し、教科会議において課題を共有し、進学指導に生かす。 中高一貫教育を見据えた中高6年間の教育課程の在り方を検討する。
	生徒の主体的な探究活動を実施する。	実験・実習を通して科学的なものの見方・考え方を養い、自然を探究する手法を身につけさせる。 学年や分掌と連携し、サイエンスリサーチ科における取組の充実を図るとともに情報発信を行う。 探究活動やコンテスト等への参加を通して、課題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。
保健体育科	自己の体力の課題を見つけ、体力向上を図る能力を育成する。	自己の体力等の状況を知り、さらなる体力向上を図るよう取り組ませる。 運動に関わる原則、事故防止等を理解させた上で安全かつ合理的な運動を実践させる。
	健康、安全に行動をとることが出来る意識を育成する。	薬物乱用についての正しい知識を身につけ、適切な行動をとることができる態度を養う。 現代社会において問題となっている事象について精査し、将来の生活につなげる力を養う。
芸術科	一般教養としての芸術の基礎・基本を把握させ、芸術を追究する態度を育てる。	中学校との関連をふまえ、表現や鑑賞の基礎・基本的事項をしっかりと把握させる。 鑑賞や制作・発表を通して、幅広い芸術の表現方法について理解を深め、芸術を追究する態度を育てる。 表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・とらえ方(思考力・判断力・表現力)を学び、芸術を愛好する心情を育てる。
	基本的な表現技法、演奏技能を育てる。	基礎・基本的内容の整理と多様な表現について研究し、技能を育てる方法について研究を深める。 日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感じ、自ら表現することができる力を養う。 言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。
	よりよい授業に向けて教材開発・研究を行う。	研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究し、授業改善に努める。 多角的視野に立脚したアプローチで学習者の知的好奇心に迫る授業に努める。 多様な芸術について理解を深めさせるための鑑賞教材を研究し、その充実を努める。
英語科	基礎学力を定着させ、希望進路の実現に向けて生徒に学力の伸長を実感させる。	学習の仕方を具体的かつ継続的に指導し、個々の目標を明確に持たせ、適切な課題や小テストを与えながら、授業や家庭学習に取り組ませる。 同科目の担当者間の連携を密にし、どのクラス・講座においても教材や指導目標等をそろえて、学年全体のレベル(模試の平均点偏差値等)をアップさせる。 生徒個々のレベルに応じた指導をより効果的にするために、授業内容を柔軟に見直しつつ、土曜学習や補習授業を習熟度別講座編成等で活用する。
	英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	授業に「読む」「聴く」「書く」「話す」の四技能を取り入れ、生徒が英語を使う量を増やし、コミュニケーションに対する関心や意欲を育てる。 留学や海外の高校生との交流等、英語によるコミュニケーションを実践する機会を積極的に活用するよう指導する。 授業で扱った内容に対して「自分はどう思うのか」を常に意識させ、自分の考えを英語で話したり、書いたりする機会を確保する。

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

## 平成29年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
家庭科	将来を想像し創造していく自立した家庭経営者の育成を目指す	実践的・体験的な学習を通して、知識と技術の定着を行う。 アクティブラーニングを充実させ、客観的思考や他者理解に努めさせる。
	論理的、実践的、自発的な生徒の学びを育成する	家庭との協力による復習の機会や年間を通した継続的な取り組みを生徒発信により充実させる。 生活力を高める授業の充実と生徒の主体的活動の充実に努める。
	教科指導力の向上	中高一貫教育を見据え、6年間を見通した指導について検討する。 互見週間を利用し他教科の指導法から学ぶとともに、客観的な視点を大切にする。
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を身に修得させる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得する。 将来、必要と予想されるコンピュータリテラシーを習得させる。また、プレゼンテーション実習等を通じてコミュニケーション能力を養う。
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	インターネット、電子メールや携帯電話などの利便性と信憑性・危険性を理解、把握させる。 著作権保護の重要性を理解させる。
	教員の指導力の向上	情報に関する最先端の内容の研究と指導法の研修を継続的に行う。